



協働型地域おこし協力隊
わたなべ よしかず
渡辺 悦寿さん

着任：令和3年12月
出身：白老町

—これまでの経歴について教えてください。

子どものころからお菓子作りなどが好きで、料理人になりたいと思い調理師専門学校に進学しました。卒業後、和食料亭で4年、ホテルでパティシエを7年、ホテルのベーカリー部門や町のパン屋などで20年、料理人として多くの経験を積んできました。自分でパン屋を経営したこともあります。

—現在はどうのような活動をしていますか？

ハスカップ農園の運営を主として、ハスカップの栽培や加工品の製造・販売をしている株式会社あつまみらいで、パティシエとして新商品の開発を担当しています。

新たにハスカップをパン生地巻き込んだ食パンの開発を進めているところです。また、札幌の店舗「ゆのみ茶屋」の手伝いに行くこともあります。

ハスカップは品種によって酸味や甘さが異なるので、その品種の特徴を生かした商品になるように研究と努力を続けています。

—入社したきっかけは？

知人を通じて、同社代表の山口さんがパティシエを探しているという連絡をもらいました。山口さんに会って話をしてみると、明るくてやさしい雰囲気と陽気でやる気にさせてくれそうな人柄で好印象。自分の経験してきたことも生かせるし、この人の役に立ちたい！やってみよう！と思い、働くことを決めました。

—厚真町の印象を教えてください。

移住する前は、雪が少ない印象がありました。住んでみると、特に去年は雪が多く、寒さを実感しました。反面、優しくてあたたかい人が多く、とても住みやすいです。

—3年後の目標を教えてください。

可能な限り、山口さんの夢や想いを具現化していくことです。主力食材であるハスカップを使用した商品一品でも多く開発したいです。ハスカップは、スイーツでも料理でも応用の利く奥が深い食材なので、幅広く多くの方に喜んでいただける料理が提供できるように頑張っています。

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈6月末現在〉

農業支援員▷9人 教育魅力化支援員▷3人
起業型▷6人 協働型(旧企業研修型)▷12人

起業型地域おこし協力隊

まん だ ひかる
満田 光さん

着任：令和3年4月
出身：中国 内モンゴル



—これまでの経歴について教えてください。

もともと日本が好きで興味を持っていました。日本語学校で学ぶために平成17年4月に来日し、奈良や兵庫、大阪で過ごしました。その後、学生時代のアルバイトの経験を生かして、平成24年に空調機器のメンテナンス会社を立ち上げました。

—厚真町に来ようと思ったきっかけは？

内モンゴルにある実家では、約3,000頭の羊を飼育する牧場を経営していて、令和元年ごろから実家の牧場のあとを継ぐかどうか悩んでいました。同時に、日本でも内モンゴルと同じような羊の牧場を経営したいと思うようになりました。インターネットを使って「羊」「牧場」などのキーワードで検索していたら、厚真町で羊牧場を営む山田さんの記事に出会い、自分でも実現できる可能性を感じて厚真町に決めました。

—ローカルベンチャースクールに挑戦されましたね。

情報収集を進めていくと、ローカルベンチャースクールにたどり着きました。参加してみると、経験豊富な方と対話を重ねることで多くのアドバイスをもらい、刺激を受けました。厳しい現実を知りましたが、とても貴重な経験になりました。

—現在はどうのような活動をしていますか？

宅地を利用して、モンゴルの伝統的な移動式住居のゲルを使った宿泊施設や羊の牧場をつくるための準備を進めています。ようやく土地が見つかり、登記も完了しました。

—厚真町の印象を教えてください。

季節を感じられる四季があり、内モンゴルに似て静かで住みやすいです。町の人はみんな優しくて親しみがあります。親近感があり、家族と話しているような感じで話しやすい印象です。

—3年後の目標は？

少しずつではありますが、やりたいことがカタチになりつつあります。ゲルを使った宿泊施設併設の羊の牧場を作って、羊で売り上げが出せるようにしたいと思っています。まずは、最低でも1,000頭の羊を飼育できる牧場を目指しています。